

大学のまち京都・学生のまち京都推進計画

2014-2018

(案)

目次

■ 計画の概要

第1編 計画策定の趣旨など

1	これまでの京都市・大学コンソーシアム京都の取組	1
2	計画策定の趣旨	3
3	計画の位置づけ	4
4	計画の推進に向けて	5

第2編 大学・学生を取り巻く状況と課題

1	大学・学生を取り巻く状況	6
2	今後の課題	8

第3編 目指すべきビジョン 11

第4編 施策の推進

1	学生が学ぶ環境の充実	13
2	大学・学生の国際化の促進	17
3	学生の進路・社会進出の支援	22
4	大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化	25
5	学生が持つエネルギーをいかした京都力の強化	30
6	プロモーション戦略の強化	33

■ 資料編 37

「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画 2014-2018」（案）の概要

1 計画策定の趣旨など

<これまでの京都市と大学コンソーシアム京都の取組>

- 1 「大学のまち・京都21プラン」策定と大学コンソーシアム京都設立、キャンパスプラザ京都設置
- 2 「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」の策定・推進
- 3 大学コンソーシアム京都の取組（単位互換、京カレッジ、インターンシップなど）

<計画策定の趣旨>

社会状況の変化や前計画の成果を踏まえ、京都市と大学コンソーシアム京都が協働で策定

2 大学・学生を取り巻く状況と課題

<状況>

国内における18歳人口の長期的な減少やグローバル化に伴う国際的な大学間競争の激化により、大学・学生を取り巻く状況が厳しさを増している

<課題>

- (1) 学生の学びを支える環境づくりの充実
 - 大学の集積をいかした「大学のまち京都・学生のまち京都」としての更なる魅力づくり
 - 大学の個性化、学びの環境の向上に向けた主体的な活動を支援する仕組みの充実
- (2) 大学・学生の国際化を促進する仕組みの充実
 - 海外からの留学生誘致・支援を総合的に進める仕組みづくり
 - 京都で学ぶ学生が広く留学機会を得られる仕組みの充実
- (3) 学生の進路・就業への対応
 - オール京都で学生の就業力を高める取組
 - 京都の大学で学んだ学生が京都で活躍できる仕組みづくり
- (4) 大学と産業・地域との連携の強化
 - 大学と産業界・企業との連携・協働の強化
 - 大学と地域との連携を円滑にコーディネートする機能の強化
- (5) 学生の主体的活動の促進
 - 学生の力をいかすことで学生の育ちと地域の活性化につながる仕組みの充実
 - 学生が大学の枠を超え、主体的に活動できる環境づくり
- (6) 「大学のまち京都・学生のまち京都」の発信力の強化
 - 「大学のまち京都・学生のまち京都」としての個性や魅力の再認識
 - 対象を意識した効果的な情報発信・PR

3 目指すべきビジョン

世界に誇る
「大学のまち」
「学生のまち」

～世界の学生・研究者から
選ばれる都市を実現～

ビジョンの具体的なイメージ

- 1 京都で学ぶ魅力を実感できるまち
- 2 グローバルな視野を持った人財が集い、育つまち
- 3 京都で学んだ学生がいきいきと活躍するまち
- 4 産学公地域連携による活力にあふれたまち
- 5 学生が主体的に活動し、輝くまち

計画の推進

計画推進組織

京都市、(公財)大学コンソーシアム京都、大学、学生、企業、NPO等からなる「大学のまち京都・学生のまち京都推進会議」による計画の進行管理

計画推進期間

平成26年度から5年間

4 施策の推進

1 学生が学ぶ環境の充実

<リーディング施策>

- (1) 「量から質へ」単位互換科目の魅力の向上
- (2) 「景観と機能の調和」大学施設整備の支援

<推進施策>

- (1) 「安全に安心して学べる京都」の充実
- (2) 学生が京都とふれあい、協働する環境づくり
- (3) 大学経営・運営の支援
- (4) 多様な大学・学生活動拠点の活用・設置の促進

2 大学・学生の国際化の促進

<リーディング施策>

- (1) 「京都を知ろう」留学生誘致に向けた海外への広報
- (2) 「京都に触れよう」大学のまち京都の魅力を実感できる短期留学受入の実施
- (3) 「世界を見よう」京都で学ぶ学生の海外留学派遣の強化

<推進施策>

- (1) 留学生支援機能の強化
- (2) 留学生等に住み良いまちづくり
- (3) 留学生の進路・社会進出の支援
- (4) 大学職員の国際化の支援
- (5) 海外との学術教育研究の交流促進

3 学生の進路・社会進出の支援

<リーディング施策>

- (1) 「未来の京都を担う」京都企業と連携した人財育成
- (2) 「京都で働く」京都企業と学生のマッチングの促進

<推進施策>

- (1) 大学卒業後の多様な選択肢を描ける人財育成の推進
- (2) ニーズに対応した就業マッチングの促進
- (3) 進路力バーアップの推進

4 大学との連携による 京都の経済・文化・地域の活性化

<リーディング施策>

- (1) 「京都発イノベーション」大学との連携によるものづくり技術の継承・発展
- (2) 「飛び出す大学」大学と地域の連携・コーディネートした仕組みの充実

<推進施策>

- (1) 産学公の連携による京都経済の活性化
- (2) 教育・研究分野の新展開を目指す大学との連携強化
- (3) 地学公の連携による地域課題への対応
- (4) 小中高大（院）連携の推進
- (5) 大学をいかした芸術文化環境の向上

5 学生が持つエネルギーをいかした 京都力の強化

<リーディング施策>

- (1) 「一人一人が輝く」学生の主体的活動の促進

<推進施策>

- (1) 学生の活動を促進する仕組みの充実
- (2) テーマごとの学生の活動の促進

6 プロモーション戦略の強化

- #### <リーディング施策>
- (1) 「京都の大学へ行こう！」学生の力を活用した国内外への情報発信
 - (2) 「大学のまち京都・学生のまち京都」PR戦略の構築

- #### <推進施策>
- (1) 「大学のまち京都・学生のまち京都」の中学生・高校生等への発信
 - (2) 現役・OBの学生・留学生などによる京都生活の発信
 - (3) 市民向け広報の充実

第1編 計画策定の趣旨など

1 これまでの京都市・大学コンソーシアム京都の取組

(1) 「大学のまち・京都21プラン」の策定と大学コンソーシアム京都の設立、キャンパスプラザ京都の設置

昭和50年代後半、京都市は、相次ぐ市外への大学転出の動きの中で、大学振興を市政の重要な柱の一つと位置付け、昭和60（1985）年に大学問題対策委員会を設置。さらに、21世紀に向けた「大学のまち・京都」のビジョンを示し、大学と地域の総合的な発展を図るため、平成5（1993）年に、「大学のまち・京都21プラン」（以下「21プラン」という。）を策定しました。

21プランに基づき、平成6（1994）年に全国で初めての大学連携組織である「京都・大学センター」が設立され、平成10（1998）年には、産学公連携のもと、我が国で初めての大学コンソーシアムである「財団法人大学コンソーシアム京都」（平成22年に公益財団法人へ移行。以下「大学コンソーシアム京都」という。）が設立されました。また、平成12（2000）年には、大学相互間及び大学と産業界、地域社会などの間の連携及び交流を促進する活動拠点として、京都駅前に「京都市大学のまち交流センター（キャンパスプラザ京都）」を建設するなど、「大学のまち」として他都市に例を見ない先進的な取組を進めました。

平成16（2004）年には、21プランの後継計画として、「大学のまち・わくわく京都推進計画」（計画期間 平成16〔2004〕年度から平成25〔2013〕年度まで）を策定。大学・学生、大学コンソーシアム京都、地域・市民、産業界・企業、行政がそれぞれの役割を果たしながら、連携して取り組むべき事業を示し、推進してきました。

(2) 「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」の策定・推進

平成21（2009）年、京都市と大学コンソーシアム京都は協働で、「大学のまち・わくわく京都推進計画」を一新し、「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」（計画期間 平成21〔2009〕年度から平成25〔2013〕年度まで）を策定しました。この計画では「大学のまち」の推進から、学生がいきいきと輝き、京都の大きな力となることを目指し、学生に強く焦点を当て、魅力と個性あふれる「世界に誇る『大学のまち』『学生のまち』」の実現を目指した取組を推進してきました。

計画の最重点ポイントとして、「学びの環境の充実」「大学の国際化」「学生のまち」「産学公地域連携」の4つの柱を立て、54施策（うち19施策が重点施策）を推進しました。「学びの環境の充実」では、京都の大学において学部などの新設やキャンパス・大学施設の整備拡充が進むほか、市外からの大学の新規進出や、市外に転出した学部の市内回帰の動きが見られる中、京都市では、京都の景観やまちづくりに配慮するなどの良好な大学施設の整備に対しては、都市計画上の規制などの弾力的な運用や京都市の市有地の活用などを行い、大学施設の展開・立地を支援してきました。

また、「大学の国際化」においては、海外での「京都の大学紹介セミナー」の開催や「京都留学サイト」の開設により留学生誘致に取り組むとともに、京都地域活性化

につながる海外留学を支援する「海外留学派遣プログラム開発支援事業」などの実施により日本人学生の海外留学を支援する仕組みが整ってきました。「学生のまち」の取組としては、キャンパスプラザ京都に設置した学生の活動拠点「学生Place^{プラス}」や学生・地域連携ネットワーク「むすぶネット」など、学生の活動を支援し、地域と結びつける仕組みづくりが進展してきました。「産学公地域連携」では、数多くの産学連携の取組や魅力ある地域づくりや地域の課題解決に向けて大学・学生が協働で取り組む「学まちコラボ事業（大学地域連携創造・支援事業）」などの地学連携の取組が開発されてきました。

(3) 大学コンソーシアム京都の取組

大学コンソーシアム京都は、大学、行政のみならず経済団体も含んだコンソーシアムとして、大学間連携による先駆的な取組を推進し、今日まで、その事業内容・規模ともに全国の大学コンソーシアムの牽引役を果たしてきました。

具体的には、大学間連携のスケールメリットとコーディネート機能をいかして多彩な科目を提供する単位互換事業、幅広い企業・行政機関・非営利組織の参画により実体験と教育を融合したプログラムを提供するインターンシップ事業、生涯学習事業である「京^{みやこ}カレッジ」など、社会的要請の高い教育プログラムの開発と推進を行ってきました。また、未来の京都づくりに向けた政策を創造するための調査・研究などを目的とした「未来の京都創造研究事業」などの都市政策研究推進事業、毎年10月に平安神宮・岡崎公園一帯で開催される「京都学生祭典 本祭」に代表される学生交流事業、京都の大学と学びの魅力を高校生や保護者に紹介する「京都の大学『学び』フォーラム」の開催などの高大連携事業、さらには大学教職員向けのフォーラムやセミナー・研修などを行うFD・SD事業、海外の大学コンソーシアムとの協定締結による教職員・学生の双方向の交流などの国際連携事業など、多角的な事業を推進しています。

大学コンソーシアム京都では、本計画と同じく平成26（2014）年度から平成30（2018）年度までを期間とする「第4ステージプラン」を策定し、その中で今後5年間に果たす役割を次のように示しています。

- ①京都地域における大学間連携事業の推進
- ②加盟大学・短期大学の教育の質向上の追及
- ③「大学都市」京都、地域の発展と活性化の貢献

このような役割を果たすために、今後も学生の「学びと成長」に質的な深みや多様性をもたらすことを使命として、質の向上を基本とした事業の選択と集中を図り、学びのための多様なコンテンツや資源を擁する京都の特色をいかした各事業を推進することとしています。

2 計画策定の趣旨

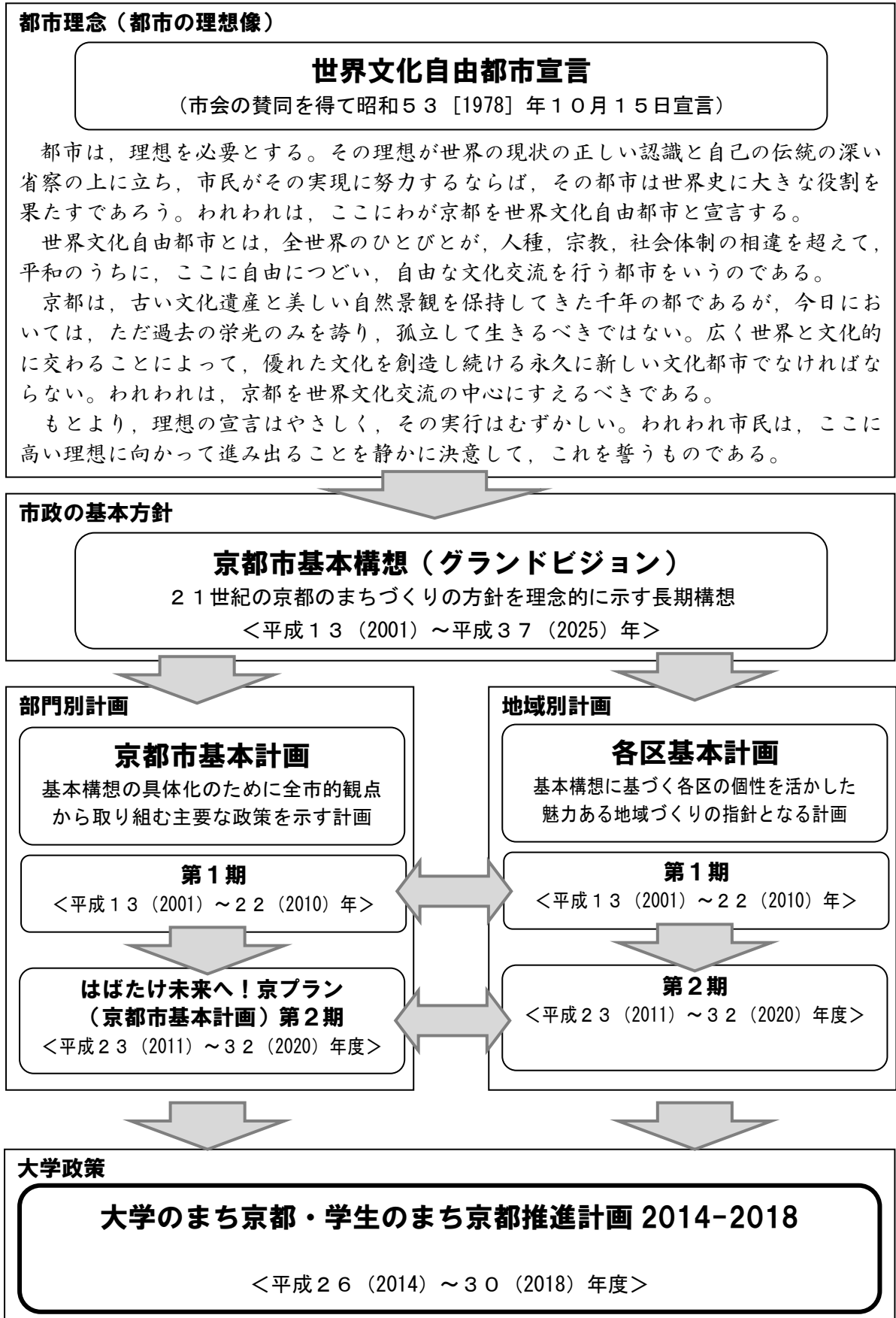
京都が「大学のまち」「学生のまち」として先進的な取組を展開し、魅力と個性を高めてきた一方で、今後、18歳人口の更なる減少や大学進学率の伸びの鈍化による受験生及び大学入学者の減少、また、大学や企業を取り巻くグローバル競争の拡大など、大学・学生を取り巻く状況は更に大きく、激しく変化することが予想されます。

世界中から多様な人財が集い、羽ばたく拠点となる「大学のまち」「学生のまち」として京都が更に発展していくためには、京都市としても、大学コンソーシアム京都との連携を一層強化し、産業界や地域と一体となって、大学・学生の集積を核とした大胆な政策を展開することが求められています。

本計画「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画 2014 - 2018」は、社会状況の変化や国の動向、「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」の成果を踏まえつつ、今後5年間で取り組むべき施策をとりまとめ、京都市と大学コンソーシアム京都が協働で策定したものです。

※ 本計画においては、「人は宝である」という考え方にに基づき、固有名詞などを除いて「人材」ではなく「人財」と表記しています。

3 計画の位置づけ



4 計画の推進に向けて

(1) 計画推進組織

本計画の関係主体である京都市、大学コンソーシアム京都、各大学、学生、企業、地域（組織）、NPOなどの団体、そして市民からなる「大学のまち京都・学生のまち京都推進会議」を継承し、産学公地域の連携で取り組むものとします。特に、京都市と大学コンソーシアム京都を中心的な主体として、計画の推進及び進行管理を行います。

本計画の推進に当たっては、計画の進捗状況の評価に、外部の視点や学生の意見を取り入れ、PDCA（Plan-Do-Check-Action）のサイクルを構築し、毎年のチェックを行うとともに、中間時点において総括を行い、成果があがらない取組の改善や中止、新規事業の検討などを行います。

(2) 計画推進期間

本計画は、近年の大学・学生を取り巻く急激かつ大きな状況変化のスピードを勘案し、柔軟な対応を図っていくため、平成26（2014）年度を初年度に、平成30（2018）年度を目標とした5年間の計画とします。

第2編 大学・学生を取り巻く状況と課題

1 大学・学生を取り巻く状況

(1) 18歳人口の減少と学生獲得競争の激化

全国的な動向をみると、今後、18歳人口は更に減少するという推計が示されています（国立社会保障・人口問題研究所）。また昨今、教育費負担の重さなどを嫌い、地元大学への進学傾向が強まり、地方から都市部へ進学する学生の減少、有力私立大学による地方出身学生の囲い込みなど、学生の争奪戦が激化しています。

一方、各大学における入試方法の多様化が進み、従来型の学力試験を課さないAO入試や推薦入試による入学者も拡大しています。しかし、それらの入試が学生確保のための方法として普及した側面もあり、入学者の学力水準低下も懸念されています。

(2) 大学・学生数の推移

全国の大学・短期大学数は減少傾向にあり、特に短期大学の減少が顕著です。一方、学生数は、年度ごとの増減はあるものの、概ね横ばいの傾向を示しています。

京都市内においても、短期大学から四年制大学への移行などが進みましたが、大学・短期大学合計の総数は横ばい、学生数もほぼ横ばいとなっています。

(3) 大学運営（ガバナンス）改革への取組

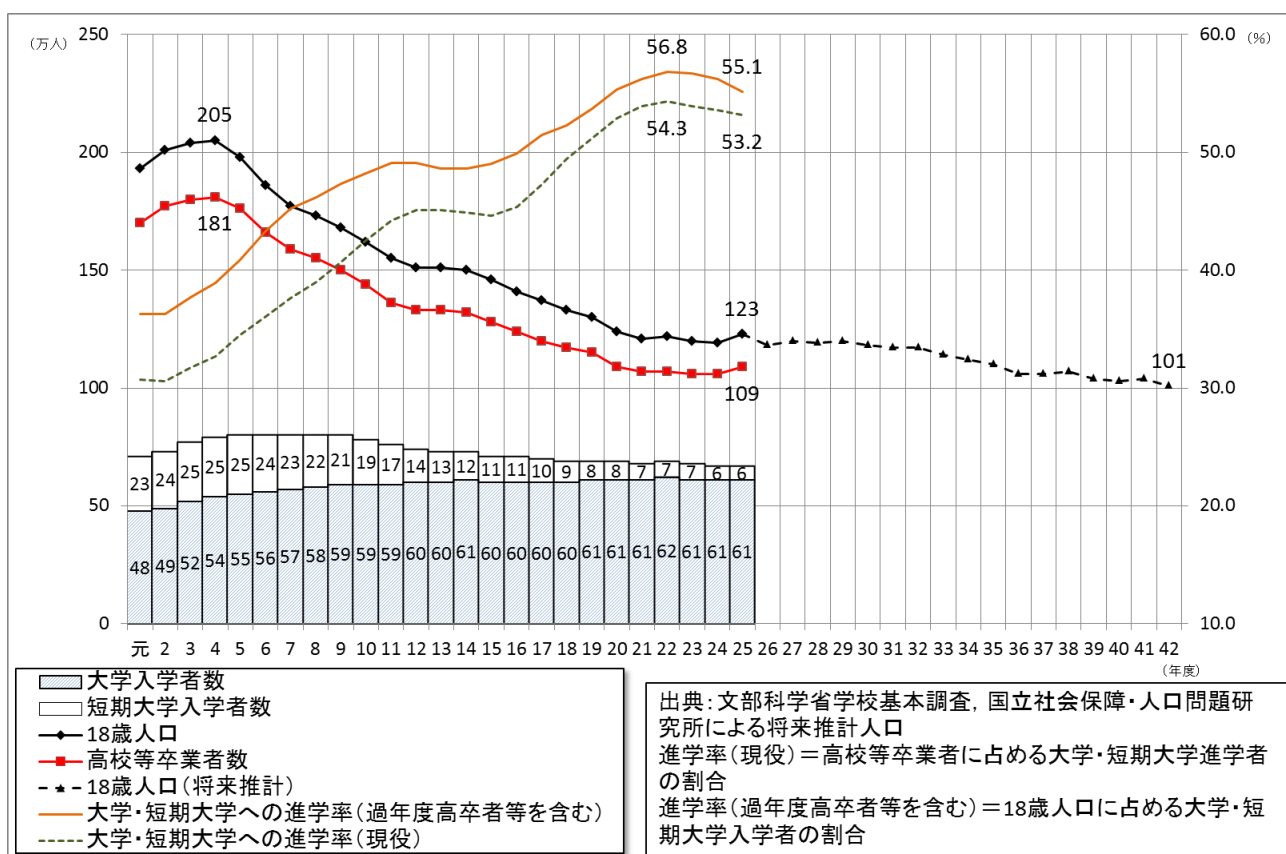
文部科学省では、魅力ある大学づくりに向けた組織改編を機動的に行うことができるよう、学位の種類や分野を変更しない学部・学科は、原則、届出による設置が可能なように制度を改めるとともに、国立大学については、所在地の近い大学や教員養成系など同分野の大学のグループ化や教育内容が重なる学部の統合なども可能にするなど改革を推進しています。

一方、大学を巡る厳しい経営環境が続く中、平成16（2004）年度から義務づけられている第三者評価に加え、透明性を高めて経営の健全化を促すとともに、受験生の学校選びに役立てるためとして、経営情報開示など私学会計基準の抜本的な見直しの方針を示しています。また、私立大学の教育研究に必要な経費に対する補助（私学助成）について地域との連携や地域貢献を指標に加えようとする動きもあります。

(4) グローバルな社会動向への対応

大学によるグローバル人材の育成や企業における海外人材採用の円滑化に向けた動きなど、社会のグローバル化がますます進展する中、大学における「学び」の仕組みも大きな変化への対応が求められています。また、PBL（課題解決型学習）など教室内にとどまらない学びの場づくりが重要視されつつあるほか、MOOC（大学講義の無料ネット配信）のように、大学のあり方そのものを問い直すような試みも現れています。

■全国の18歳人口、大学・短期大学入学者数などの推移



■大学・短期大学の学校数と学生数の推移

		21年度 (2009)	22年度 (2010)	23年度 (2011)	24年度 (2012)	25年度 (2013)
全国	大学・短期大学数	1,179	1,173	1,167	1,155	1,141
	学生数	3,006,884	3,042,687	3,043,496	3,018,104	3,007,132
京都市内	大学・短期大学数	37	37	38	38	37
	学生数	139,237	140,016	139,270	139,499	146,528
全国に占める 京都市の割合	大学・短期大学数	3.1%	3.2%	3.3%	3.3%	3.2%
	学生数	4.6%	4.6%	4.6%	4.6%	4.9%

※ 京都市内の大学・短期大学数は市内に本部が所在する大学・短期大学の数，学生数は市内に学部・学科・研究科が所在する大学・短期大学の学生数。

出典：文部科学省「学校基本調査」(各年度5月1日現在)

2 今後の課題

(1) 学生の学びを支える環境づくりの充実

18歳人口が減少し、学生の大学選択も厳しさを増す中、本市が「大学のまち京都・学生のまち京都」であり続け、さらに全国に先駆けた大学教育・研究を進めていくためには、山紫水明の自然や悠久の歴史文化、多様な大学の集積という特長を効果的に活用し、学生に選ばれるまちであり続けることが必要です。

このため、大学連携による成果を更に魅力あるものとするための取組、あるいは市内各大学による新学部設置やキャンパス整備の取組など、大学の個性化、学びの環境の向上に向けた各大学、学生、そして大学連携による主体的な活動を促進・支援する仕組みの充実が求められます。

また、昨今の自然災害や犯罪に対する社会的な不安の高まりに対し、安全・安心な学生・研究生活を確保する環境づくりも不可欠となっています。

(2) 大学・学生の国際化を促進する仕組みの充実

グローバル化がますます進展する中、わが国、そして京都が世界で存在感を維持し、高めていくため、大学には、国際社会で活躍できる人財の育成、そして海外からの優秀な学生や研究者の受入れなど、双方向の人的交流を強化していくことが求められています。

本市を訪れている留学生は、平成19（2007）年の4,513人から5年後の平成24（2012）年には6,445人へと約2,000人（約40%）増加しました。今後、平成29年度までに留学生1万人という目標の実現に向け、さらに、留学前に「大学のまち 京都」の魅力を知ってもらうところから、留学中の学びや研究活動を豊かにする住まいや生活の支援、卒業後の進路や社会進出の支援まで、留学生・研究者が京都での留学生生活をイメージできる、総合的で一貫した誘致・支援の仕組みを充実させていくことが必要です。

また、日本人学生の海外留学に関しては、経済的負担、学事暦のミスマッチ、就職活動への影響、語学力不足などにより、全国的に海外へ留学する大学生が減少しています。国際的な視野を持った人財を育成するためには、海外へ留学する学生の経済的負担の軽減、大学の規模などにかかわらず留学のチャンスを得られる仕組みづくりや学生の視野や意識を海外に向かわせる環境づくりが求められています。

■留学生数の推移

	19年度 (2007)	20年度 (2008)	21年度 (2009)	22年度 (2010)	23年度 (2011)	24年度 (2012)
全国	118,498	123,829	132,720	141,774	138,075	137,756
京都市内	4,513	4,688	5,065	5,592	5,852	6,445

※ 京都市内は、市内に本部が所在する大学・短期大学・大学院の留学生数。

出典：独立行政法人日本学生支援機構統計、京都地域留学生交流推進協議会調査（各年度5月1日現在）。

(3) 学生の進路・就業への対応

昨今の厳しい経済状況を反映し、就職率は平成20(2008)年度以降、2年連続して下落しましたが、平成24(2012)年度の大学新卒者の就職率は67.3%、短期大学新卒者の就職率は73.5%へと、3年連続して改善しました。

しかし、依然として厳しい状況は継続しており、さらに、国境を越えた人財獲得が日本企業にも広がり、日本人学生の就職活動もグローバル競争の時代を迎えています。また、大学卒業後、就職も進学もしない、いわゆるニートの増加や、本人が望まない非正規雇用などで就職せざるを得ない状況も改善すべき課題となっています。こうした状況を踏まえ、大学と企業、行政機関などが連携し、オール京都で学生の就業力を高める取組が求められています。

一方、「京都企業・就業情報データベース」などにより、市内中小企業の情報発信力は高まっていますが、学生への浸透状況の現状把握とともに、京都の大学で学び、「京都で活躍したい」という思いを持つ学生や卒業した若者と京都企業を結びつける仕組みや機会の充実が、企業と学生・大学の双方から期待されています。

■大学・短期大学新卒者の就職率

		23年3月卒 (2011)	24年3月卒 (2012)	25年3月卒 (2013)
全国	大学	61.6%(91.0%)	63.9%(93.6%)	67.3%(93.9%)
	短期大学	68.2%(84.1%)	70.8%(89.5%)	73.5%(94.7%)
京都府	大学・短大	60.4%(87.8%)	61.9%(87.8%)	65.1%(90.1%)

※ 就職率＝就職者数÷卒業生数。()内は就職者数÷就職希望者数。

出典：文部科学省学校基本調査、文部科学省・厚生労働省大学等卒業者の就職状況調査

(4) 大学と産業・地域との連携の強化

本市に立地する大学は、伝統産業から先端技術・ベンチャー企業まで、ものづくりを中心として京都産業を支え、創造する役割を歴史的に担ってきました。近年では知恵産業融合センターや京都産学公連携機構の取組を通じた文理融合の産学連携の取組も進展。商業や観光の活性化にも大学の関与が大きくなっています。

また、大学ごとの特長をいかし、教育・文化、福祉、コミュニティなど、多様な分野でまちの課題解決にも貢献してきました。これらの取組は大学による地域貢献という側面とともに、体験型学習やフィールドワークが学生の成長につながることも、双方にメリットをもたらしています。

文部科学省が、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学を支援する「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」を進めるなど、大学を地域再生の中核に位置づけた取組への期待が高まる中、本市においては、大学と地域との連携を円滑にコーディネートする機能を強化していくとともに、今後さらに、研究者や学生・ゼミ・学生組織と企業・地域の連携を深化させ、新たな時代において常に新しい都市モデルを研究・提案し続けられる産学公地域の関係を構築していくことが必要です。

(5) 学生の主体的活動の促進

京都は、まちそのものが学生の学びのフィールドとしての役割を担い、このまちで生活することが学生の成長を支えてきました。また、「京都学生祭典」をはじめ、学生が主体的に活躍する機会も広がりをもたらし、学生の存在はまちに活力をもたらした。本市は「大学のまち」であると同時に、まさに「学生のまち」であることを象徴しており、更に発展させていく必要があります。

一方、大学進学の地元志向に伴う下宿生比率の低下など、本市における学生の過ごし方や京都で過ごす時間が変化し、地域と学生の関わり方も変化してきました。

今後はこうした変化に対応しつつ、学生の社会貢献意識の高まりなどを踏まえ、個人でも、また団体や組織単位でも、学生が大学の枠を超え、主体的な活動ができる環境と、その活動を支える仕組みを充実させていくことが求められています。

(6) 「大学のまち京都・学生のまち京都」の発信力の強化

本市のように、まとまったエリアにこれだけの数の大学・研究者が集積し、多くの学生が学ぶ都市は他にありません。また、京都における大学の連携主体である大学コンソーシアム京都は名実ともに全国トップレベルの活動を推進し、単位互換制度やインターンシップなどの取組はここ京都から始まり、全国に展開していききました。

こうしてみると、京都はまさに「大学のまち・学生のまち」ですが、その都市イメージは、大学関係者など以外には、実態に比べて認識されていないのが現状です。大学による地域貢献・地域連携の取組も、その価値や意義に比べ、十分に浸透しているとはいえません。

このため、「大学のまち京都・学生のまち京都」としての個性や魅力を再認識し、情報を届けたい対象、例えば将来の大学生となる小中学・高校生、その保護者や教員、研究者、海外の学生や研究者、そして市民などに対し、それぞれのニーズを踏まえ、効果的に情報発信やPRを実施していくことが重要な課題となっています。

第3編 目指すべきビジョン

世界に誇る 「大学のまち」「学生のまち」 ～世界の学生・研究者から 選ばれる都市を実現～

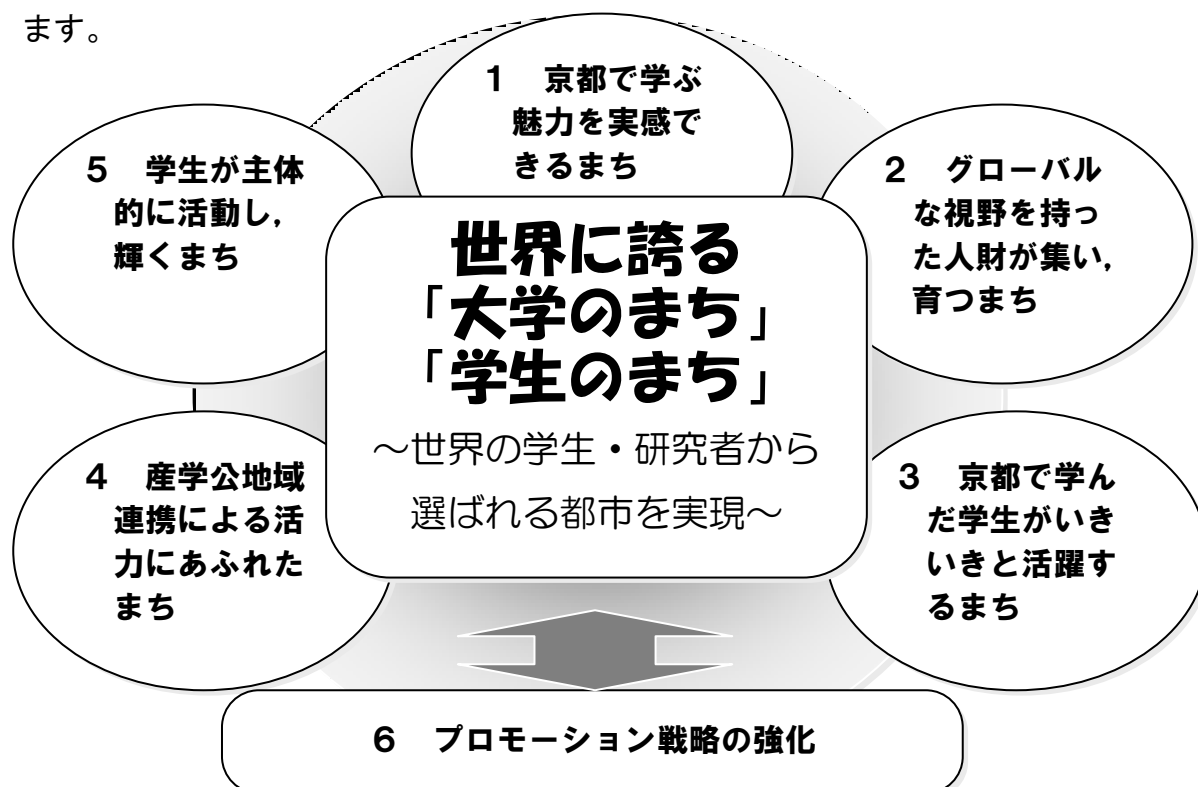
京都にとって、大学、そして学生は、文化、教育、経済はもちろん、都市格（都市ブランド）の形成やまちの活力の維持・発展など、まちづくりの多様な側面においてなくてはならない存在であり、最も重要な主体のひとつです。

しかし、大学・学生を取り巻く世界的な情勢の変化や競争の激化は、これまでになく大きく、急激なものとなっています。大学はその存在意義や生き残りをかけた個性化や教育環境づくりに懸命な取組を進めています。

大学・学生と市民とのパートナーシップによって都市の魅力や個性を高めてきた本市においても、こうした大学の努力が実を結ぶよう、「大学のまち」「学生のまち」としての特性を更に高めていく必要があります。

この計画において私たちが目指す「世界に誇る『大学のまち』『学生のまち』」とは、京都にしかないオリジナリティ豊かな学びと研究の場にあふれ、多様な学生・研究者が集い、羽ばたく拠点となるまちです。

集積された大学の知や学生の力が新たな文化・産業などの創造と地域の活性化につながり、個性・魅力・活力にあふれ、世界の学生・研究者から選ばれるまちを目指します。



第4編 施策の推進

第4編では、第3編で示したビジョンの実現に向け、6本の柱ごとに、今後5年間で推進していく施策を記載しています。

＜柱ごとの記載項目の位置づけ＞

- まちの将来像 … 本計画のビジョン「世界に誇る『大学のまち』『学生のまち』」の具体的なイメージを、施策推進の柱ごとに示しています。
※ 「6 プロモーション戦略の強化」については、他の5本の柱と位置付けが異なり、本計画全体の推進と関連する項目であるため、「方針」として記載しています。
- リーディング施策 … 本計画に基づき推進する施策の中で、特に重点的に取り組むべき施策を具体的に示しています。
- 推進施策 … 本計画に基づき推進する施策を示しています。
- 実施主体 … 各施策の主な実施主体を、京都市は【京都市】、大学コンソーシアム京都市は【コンソーシアム】と記載しています。
- 新規施策 … 本計画に新たに盛り込んだ施策には＜新規＞と記載しています。

1 学生が学ぶ環境の充実

【まちの将来像】

京都で学ぶ魅力を実感できるまち

山紫水明の落ち着いた自然，千年を超える歴史，そこから生まれた文化芸術，伝統と進取の気風が融合する産業，そして個性にあふれた多様な大学の集積のもと，わが国の大学教育・研究をリードし，大学間連携の蓄積に培われた学びの機会と，安全で安心な学び・暮らしの環境を提供するまちを目指します。

【施策項目】

リーディング施策

- (1) 「量から質へ」単位互換科目の魅力の向上 【コンソーシアム】
- (2) 「景観と機能の調和」大学施設整備の支援 【京都市】

推進施策

- (1) 「安全に安心して学べる京都」の充実 【京都市】
- (2) 学生が京都とふれあい，協働する環境づくり 【京都市，コンソーシアム】
- (3) 大学経営・運営の支援 【コンソーシアム，京都市】
- (4) 多様な大学・学生活動拠点の活用・設置の促進 【京都市】

【リーディング施策】

(1) 「量から質へ」単位互換科目の魅力の向上<新規>

大学コンソーシアム京都において，全国に先駆けて平成6年から始まった大学連携による単位互換の制度は，他の追随を許さない規模で展開してきました。一方，規模の拡大に伴い特色が薄れ，加盟大学における単位取得の厳格化などにより，学生が他大学の講義を受けにくい状況も出てきています。

このため，単位互換科目の内容・数ともに精査を図り，改めて「大学のまち京都」ならではの学生にとって魅力のある単位互換制度の再構築を図ります。

また，各科目を学生が評価し，改善するための仕組みの導入について検討します。

◀主な具体的取組▶

- ア) 京都だからこそ提供できる特色ある単位互換科目の開発
- イ) 加盟大学による，より特色のある魅力的な単位互換科目の提供
- ウ) 単位互換科目受講後の評価システムの検討
- エ) 学生などの評価に基づく単位互換科目の改善の仕組みづくり

整備の支援を行います。また、単独で外出が困難な障害のある学生への移動支援事業による通学支援に継続して取り組みます。

(2) 学生が京都とふれあい、協働する環境づくり

① 学生が京都の魅力にふれる機会の充実

全国の大学生が京都学生祭典の日の前後に無料で京都の文化施設に入場できる「Student Days」の充実や、大学コンソーシアム京都加盟大学の学生がスマートフォンなどから登録することにより、市内の文化施設が優待料金で入場できる「京都市キャンパス文化パートナーズ制度」の対象施設拡大と文化芸術情報の配信などにより、学生が京都の文化などを体験できる機会を拡充します。

② 学生の意見吸収システムの構築<新規>

スマートフォンなどの情報端末を活用した学生アンケートの実施など、「大学のまち京都・学生のまち京都」としての評価や学びの環境に対する学生の意向・ニーズを把握する仕組みを構築します。

③ 学生が地域の一員として暮らせる環境づくり<新規>

学生が居住地において地域とのつながりを持てるよう、学生に対して、京都における自治会・町内会などの地域コミュニティの果たす役割や活動などに関する情報を発信するとともに、自治会・町内会などに対しても、学生を地域の一員として積極的に迎え入れるよう、啓発などの取組を進めます。

(3) 大学経営・運営の支援

① 京都FD・SDプログラムの充実

大学（及び教員・職員）が集積する特色を活かし、教員と職員が共通して受講するプログラムなど、教育・研究と大学運営の効果的な連携・協働を支援する、大学コンソーシアム京都におけるFD・SDプログラムを充実させます。

② 大学への寄付の増進

京都市が条例で指定する大学へ寄付することで、個人市民税が控除される制度について、大学及び市民に対する広報・啓発の充実と指定大学の拡大により、大学への寄付の増進を促進します。

(4) 多様な大学・学生活動拠点の活用・設置の促進

① キャンパスプラザ京都の利用促進

キャンパスプラザ京都に対する認知度の向上と一層の活用促進を図るため、市民や学生、研究者に対して積極的に広報します。

② 大学サテライトなどの設置支援

京都らしい大学サテライトキャンパスやまちなかキャンパスの設置を促進するため、京町家や近代建築に対する建築基準法の適用除外制度などの活用を支援します。

※単位互換制度

…他大学が開講する科目を履修し，修得した単位が所属大学の単位として認定される制度。
大学が，単位互換包括協定を締結し，科目を提供。

※地区計画

…住民の生活に身近な地区を単位として，道路，公園などの施設配置や建築物などに関する事項について，地区特性に応じてきめ細かなルールを定めるもの。

※FD

…Faculty Development の略。教員の教育力向上と大学の組織的教育改善の取組。

※SD

…Staff Development の略。職員の職能開発。

※サテライトキャンパス

…大学などの本部から地理的に離れた場所に設置されたキャンパス。

2 大学・学生の国際化の促進

【まちの将来像】.....

グローバルな視野を持った人財が集い、育つまち

世界中の学生・研究者が集い、訪れた学生・研究者が優れた教育研究環境のもと切磋琢磨し、地域とのふれあいや多文化交流を通じて充実した大学・研究生活を過ごすことで、京都を愛し、将来にわたって京都で、そして世界と京都を結んで活躍する人財が育つまちを目指します。

また、海外からの留学生・研究者との交流や海外留学などを通じて、このまちで学ぶ学生が、グローバルな視野を持った人財として育つまちを目指します。

【施策項目】.....

リーディング施策

- (1) 「京都を知ろう」留学生誘致に向けた海外への広報
【京都市，コンソーシアム】
- (2) 「京都に触れよう」大学のまち京都の魅力を体感できる短期留学受入の実施
【京都市，コンソーシアム】
- (3) 「世界を見よう」京都で学ぶ学生の海外留学派遣の強化
【京都市，コンソーシアム】

推進施策

- (1) 留学生支援機能の強化 【京都市】
- (2) 留学生などに住み良いまちづくり 【京都市，コンソーシアム】
- (3) 留学生の進路・社会進出の支援 【京都市，コンソーシアム】
- (4) 大学職員の国際化の支援 【コンソーシアム】
- (5) 海外との学術教育研究の交流促進 【京都市，コンソーシアム】

④ 留学生の交流機会の充実<新規>

留学生同士、そして留学生と日本人学生などの交流機会の充実を図るため、「外国人留学生交流等促進補助事業」の実施や京都学生祭典への留学生の参画を進めます。

また、フェイスブックにおいて開設した「京都留学生同窓会」などにより、留学生やOB・OGへの情報提供に努めます。

⑤ 京都を好きになってもらう取組の充実

文化施設の見学などを優待する「留学生おこしやすPASS」の発行や伝統文化や生活文化に親しむことができる留学生向けプログラムの充実など、市民とのふれあいを通じて留学生が京都あるいは日本の文化を理解し、愛着を持ってもらうための取組を充実します。

(3) 留学生の進路・社会進出の支援

国際交流会館などにおける留学生向けのキャリアガイダンスやジョブフェアの開催に加えて、ウェブサイト「World Stage」や「京都市留学生いきいき人材バンク（kokoka 留学生ねっと）」において就職やインターンシップに関する情報を提供するなど、京都府の「京都ジョブパーク・留学生コーナー（海外人材ジョブカフェ）」と連携し、京都で学んだ留学生と企業とのマッチング機会の充実に努めます。

(4) 大学職員の国際化の支援<新規>

大学の国際化を支える大学職員の国際化を促進するため、大学コンソーシアム京都において、留学生の受入や京都で学ぶ学生の海外留学派遣のノウハウを含めた国際化のためのSD（職員研修）プログラムを開発・実施します。

(5) 海外との学術教育研究の交流促進<新規>

京都市と海外の都市において、民間レベルでの「文化・芸術」、「学術研究・教育」、「経済」など特定分野の交流促進を目的とする「パートナーシティ」提携を進める中で、海外の大学・学生や大学連携組織と市内の大学・学生や大学コンソーシアム京都との連携・交流を促進します。

※外国人のためのお部屋情報 HOUSE navi

…公益財団法人京都市国際交流協会と公益財団法人日本賃貸住宅管理協会京都府支部が協働で運営する、外国人のための物件検索サイト。英語・中国語・ハングルでも利用が可能。

※京都市生活ガイド

…初めて京都で生活する外国人が安心して暮らせるように、生活上の留意点を説明した冊子。英語、中国語、ハングル及びスペイン語版があり、各々日本語を併記。

※外国人留学生交流等促進補助事業

…留学生と地域の交流を促進し、応援するため、留学生を含む市民団体などが主体となって行う留学生との交流事業に対する補助制度。

※京都留学生同窓会

…京都で学ぶ留学生やOB・OGの交流の場として、平成25(2013)年8月に開設したフェイスブックページ。

※留学生おこしやす PASS

…一定期間、京都市内の文化施設などの入場が無料となるパスポート。京都市が発行。

※World Stage

…留学生向け就職情報サイト。

※京都ジョブパーク・留学生コーナー（海外人材ジョブカフェ）

…府内大学で学ぶ留学生などの京都企業への就職支援と、留学生の雇用を検討している京都企業を支援するための就職・雇用相談を実施。

※パートナーシティ

…民間レベルでの交流を主体とする、「文化・芸術」、「学術研究・教育」、「経済」などの特定分野での都市間交流。

(2) ニーズに対応した就業マッチングの促進<新規>

短期大学や芸術系大学、留学生などのシーズに対して、雇用の意思やニーズのある企業とのマッチング機会の充実・強化を図るため、芸術系大学や女子大学、短期大学などを対象とした「京のまち企業訪問」出張企業説明会を開催します。

(3) 進路カバーアップの推進<新規>

卒業間近で就職先が決まっていない学生や卒業後の就職希望者に対し、カウンセリングやセミナー、マッチング機会の提供、資格取得や就業体験機会の提供を実施し、求職者の早期就職につなげていきます。

※京都府中小企業人材確保・定着支援事業協議会

…平成 24 (2012) 年 5 月発足。人材確保・定着支援を促進する仕組みづくりのため、大学や学生、企業などのニーズや課題に応じて情報収集・提供・発信・共有を行い、オール京都体制で企画の運営や事業連携を推進。

【構成機関・団体】

…京都労働局・京都府・京都市・京都府商工会議所連合会・京都府商工会連合会・京都経営者協会・社団法人 京都経済同友会・公益社団法人 京都工業会・京都中小企業家同友会・京都府中小企業団体中央会・公益財団法人 大学コンソーシアム京都・近畿経済産業局 (オブザーバー)

※京都企業・就業情報データベースシステム (京のまち企業訪問)

…就業情報や市内中小企業の魅力ある情報を発信するウェブサイト。2,400 以上の企業情報を掲載 (平成 25 [2013] 年 12 月現在)。

※京都市フルカバー学生等就職支援事業

…就職活動をスタートする大学生、既卒者 (卒業後 3 年以内) を対象とした、京都市から事業受託した京都経営者協会が運営する事業。社会人に必要なマインドを醸成する集中セミナー、就職に関する相談などにより個々のキャリア形成などをサポート。

4 大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化

【まちの将来像】.....

産学公地域連携による活力にあふれたまち

大学が有する人財や研究開発力・研究成果が、京都の多様な産業や地域コミュニティと協働・融合し、伝統産業や伝統文化など京都の誇る個性を継承・発展させるとともに、世界で最先端の産業や文化を創造し続け、社会問題の解決や地域活性化などの課題に対して、常に日本で最先端の取組モデルを展開し続けるまちを目指します。

【施策項目】.....

リーディング施策

- (1) 「京都発イノベーション」大学との連携によるものづくり技術の継承・発展
【京都市】
- (2) 「飛び出す大学」大学と地域の連携・コーディネートの一環の充実
【京都市，コンソーシアム】

推進施策

- (1) 産学公の連携による京都経済の活性化 【京都市】
- (2) 教育・研究分野の新展開を目指す大学との連携強化 【京都市】
- (3) 地学公の連携による地域課題への対応 【京都市，コンソーシアム】
- (4) 小中高大（院）連携の推進 【京都市，コンソーシアム】
- (5) 大学をいかにした芸術文化環境の向上 【京都市，コンソーシアム】

【リーディング施策】.....

- (1) 「京都発イノベーション」大学との連携によるものづくり技術の継承・発展
京都の産業，特にものづくりは、伝統的な産業から最先端の高度な研究開発まで、大学や大学研究者などの知的資源・ノウハウとの連携・共同によって発展してきました。

今後もこの関係を更に発展させていくため、産学共同研究プロジェクトにより最先端の技術シーズを産業化し、京都市の産業競争力の確保と新規事業創出の拠点となる「京都市成長産業創造センター」における取組を推進します。

また、京都市産業技術研究所における伝統産業技術者研修など、大学が有する知的ノウハウをいかし、技術継承や職人技術の保全・継承など、伝統産業の維持・継承を図ります。

《主な具体的取組》

- ア) 「京都市成長産業創造センター」における産学共同研究プロジェクトの推進
- イ) 「研究成果展開事業（スーパークラスタープログラム）」や「地域イノベーション戦略支援プログラム」における産学連携による環境分野の研究開発及び事業化の推進
- ウ) 京都産学公共同研究拠点「知恵の輪」における地域の大学との共同研究推進

④ 国内外の高度人材との交流の推進による新たな価値の創造の促進<新規>

国内外の優れた研究者や芸術家などの多彩な高度人材を呼び込み、京都の研究者や学生、企業人との高密度の知のネットワークを構築することによりイノベーションを創出し、新たな価値を生み出す「京都・高度人材交流拠点（仮称）」の設置を検討します。

（２）教育・研究分野の新展開を目指す大学との連携強化<新規>

大学の教育・研究分野の新展開に関する情報を早い段階から共有し、京都市の施策との連携促進につながるようコーディネート機能を強化します。

（３）地学公の連携による地域課題への対応

① 地域の問題解決につながる都市政策研究の推進

「大学のまち京都」が有する知の集積を活用し、未来の京都づくりに向けた政策を創造するための調査・研究を行うとともに、若手研究者などの発掘・育成とネットワーク形成を図る「未来の京都創造研究事業」を継続して実施します。

② 地学公連携の市民への周知<新規>

市民の「大学があってよかった、学生がいてよかった」という意識を醸成するため、大学の地域貢献や地域と大学の共同事業を紹介する「地学連携ウェブサイト」を充実させます。

（４）小中高大（院）連携の推進

① 高大連携の強化

高校と大学がともに学び合い、育ち合う関係の構築に向け、共同授業や出張授業の充実など、大学コンソーシアム京都における京都高大連携研究協議会を中心とした高校と大学の連携を強化します。

また、高校・大学のニーズの把握に努め、高校生や保護者に京都の大学の学びを紹介する「京都の大学『学び』フォーラム」の充実と、企画への高校関係者の参画を促進します。

② 市立小中学校・高校と大学の連携強化

市立小中学校・高校教員の教育技術の向上や新しい専門情報の取得に向け、市立小中学校・高校と大学の共同研究、教員養成のための研修の充実を促進します。

また、高校授業の支援と大学生の現場体験機会の拡充に向け、大学生に対する参加意識の啓発や「学校サポート事業」などによる学生ボランティアの小中学校・高校への派遣を促進します。

③ 産学公連携による京都市らしい教育システムの構築

産学公とメディアで構成し、次世代の教育のあり方や人財育成の方向性を検討する「京都教育懇話会」活動を推進し、京都発の先進的な次世代教育の研究や取組を発信します。

また、産学公や市民ぐるみで子どものものづくり体験機会の充実に取り組む「京都子どもモノづくり事業」を推進します。

(5) 大学をいかした芸術文化環境の向上

① 芸術系大学の集積をいかした芸術文化力の向上<新規>

地下鉄駅への学生の芸術作品の展示など、芸術系大学の共同による学生作品の展示や市民が作品にふれる機会づくりを促進します。

② 歴史・文化の蓄積をいかした社会人向け学習機会の提供

ブランド性の高い既存プログラムの拡充や市民が参加しやすい日時の開催など、「大学のまち京都」ならではの生涯学習プログラムとして大学コンソーシアム京都で実施している「^{みんが}京カレッジ（生涯学習事業）」の更なる魅力の向上を図ります。

③ 文化芸術教育プログラムの推進<新規>

芸術系5大学と小中学校、行政で構成する「京都芸術教育コンソーシアム (Art-e Kyoto)」を中心として、市内の小中学校における美術教育の充実を図り、文化・芸術的素養を持った子どもを育成するとともに、フォーラムの開催などにより芸術教育の取組を広く紹介します。また、芸術系大学と市内の小中学校との間での、音楽・芸術活動の体験・発表の場づくりを進めます。

④ 若手芸術家・クリエイターの育成<新規>

京都在住芸術家を支援する「東山 アーティスツ・プレイスメント・サービス (HAPS)」, 京都芸術センターにおける若手芸術家の総合的支援, 「京都版トキワ荘プロジェクト」などを推進し, 伝統芸術から映画やマンガなど新しいコンテンツを含め, 次代の京都の文化・芸術の振興を担い, 新たな京都文化を生み出す若手芸術家・クリエイターを育成します。

※京都市成長産業創造センター

…大学・研究機関、企業などの産学公が連携し、化学分野における最先端の大学の研究成果を実用化につなげる研究プロジェクトを推進することにより、付加価値の高い高機能性化学品の創出を通して、産業競争力の確保・新規事業の創出を図る研究開発拠点。

※研究成果展開事業（スーパークラスタープログラム）

…各地域で取り組まれてきた地域科学技術振興施策の研究成果をいかしつつ、国際競争力の高い広域連携による「スーパークラスター」を形成することを目的とする事業。京都地域は、省エネ効果のあるSiCデバイスの社会実装普及などを目指した「クリーン低環境負荷社会を実現する高効率エネルギー利用システムの構築」をオール京都で提案し、平成25年10月4日に本事業の中核をなすコアクラスターに採択。

※地域イノベーション戦略支援プログラム

…地域が主体的に実施する産学公連携によるイノベーション創出のためのシステム整備を図ることを目的としたプログラム。京都地域は、エネルギーを「蓄える」「創る」「うまく使う」の観点から世界のエネルギー問題に貢献する研究開発の支援などを目的とした「京都次世代エネルギーシステム創造戦略」をオール京都体制で提案し、平成25（2013）年7月1日に採択。9月1日から事業開始。

※京都産学公共同研究拠点「知恵の輪」

…独立行政法人科学技術振興機構から高度研究機器（無償貸与）の配備を受け、桂イノベーションパーク及び京都リサーチパークにおいて、京都大学などのバックアップを得ながら、先端光加工プロジェクトとバイオ計測プロジェクトを推進し、機器の共用利用による共同研究の促進や高度技術者の育成などを展開する事業。

※地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）

…大学などが自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学を支援することで、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的とした文部科学省の事業。

※京都産学公連携機構

…京都における産学公のあらゆる機関が相互に情報を共有しながら、連携と協働を進めるための基盤として平成15（2003）年2月に設立。

※京都の大学「学び」フォーラム

…大学コンソーシアム京都加盟校の特色ある模擬講義や体験型講座などを通じて、高校生や保護者に京都の大学の学びを紹介する高大接続のプログラム。

※学校サポート事業

…市立幼稚園・学校において、学生ボランティアが、学級活動や部活動の補助など、児童・生徒に関わる学校活動を支援する事業。

※京都教育懇話会

…京都の産学公とメディアで組織され、次世代の教育についてのあり方、人材育成の方向性を模索し、先進的な取り組みを京都から全国へ発信していくことを目的とした組織。

※京都子どもモノづくり事業

…「ものづくり都市・京都」の特性をいかし、産学公連携・市民ぐるみにより、小中学生がモノづくりを学び・体験する機会を創出する取組。

※京都芸術教育コンソーシアム

…京都市立小・中学校と連携し、美術教育の充実や芸術を大切にする風土づくりに取り組むため、大学コンソーシアム京都加盟の芸術系5大学（京都市立芸術大学、京都嵯峨芸術大学、京都精華大学、京都造形芸術大学、成安造形大学）と京都市、京都市教育委員会、京都市立小・中学校によって設立された組織。

※東山 アーティスツ・プレイスメント・サービス（HAPS）

…京都在住の芸術家の居住・制作・発表の包括的支援や地域や国内外と芸術家のネットワーク形成など、文化芸術がポテンシャルを発揮できる環境の創造を目標とした取組。

※京都版トキワ荘プロジェクト

…京町家を活用した安価なシェアハウスの提供やマンガ家向け講習会の開催など、マンガ家志望者がプロとなるきっかけを提供するコミュニティづくりの取組。

5 学生が持つエネルギーをいかした京都力の強化

【まちの将来像】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

学生が主体的に活動し、輝くまち

このまちに住み、集う学生の主体的な活動を支援する意識や仕組みが充実し、学生の成長を地域ぐるみで応援するまちを目指します。

また、その活動が自己実現にとどまらず、未来の京都づくりにつながる人財となって、力強いエネルギーやチャレンジ精神が地域の活性化や課題解決に寄与するまちを目指します。

【施策項目】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

リーディング施策

(1) 「一人一人が輝く」学生の主体的活動の促進 【京都市，コンソーシアム】

推進施策

(1) 学生の活動を促進する仕組みの充実 【京都市】

(2) テーマごとの学生の活動の促進 【京都市】

(2) テーマごとの学生の活動の促進

① 防災、安全・安心の取組

防火や防災の知識・技能を身につけ、災害対応における学生の活躍につなげることを目的とした「京都学生消防サポーター」制度を周知し、参加・登録を促進します。

また、犯罪や事故の少ないまちを実現するために、学生防犯ボランティア「ロックモンキーズ」など学生への支援と連携を進めます。

② 環境にやさしい取組

学生が無理なく実践できる環境にやさしいライフスタイルの実現のため、学生の視点で京都流ライフスタイル手引書を作成し、各大学のイベントでの呼びかけなどを通じ、学生のライフスタイルの転換を推進します。

また、京都学生祭典における、「DO YOU KYOTO?プロジェクト」と連携したエコイベントの実施など、環境問題・環境対策で活躍する学生の力をまちづくりにいかすとともに、そのニーズに応じて、情報の提供など学生の主体的な活動を支援します。

③ コミュニティの活性化<新規>

自治会などの活動の情報発信に努めるとともに、京都学生祭典実行委員会による地域の清掃・夜警活動への参加の促進など、学生の地域活動への参画を促進します。

また、地域との交流をテーマに、空き家などを学生の住居やゼミ活動の拠点として活用する大学やNPOなどの活動の支援を検討します。

※学生^プラ^ラズ^ス P l a c e +

…キャンパスプラザ京都 1 階にある学生の活動拠点。専門知識を持つコーディネーターによる助言、ミーティングスペースの提供や備品の貸出など、学生活動を総合的に支援する「輝く学生応援プロジェクト」を実施。

※京都学生消防サポーター

…各種研修などを通じて防火防災の知識や技能を身につけた学生の力を「地域の災害対応力の強化」や「防火防災の普及啓発」につなげることを目的とした取組。平成 25 年 11 月現在、263 名の学生が登録。

※学生防犯ボランティア「ロックモンキーズ」

…自主防犯活動への参加を希望する大学生を対象に、京都府警察が設けた学生防犯ボランティア登録制度。

※DO YOU KYOTO?プロジェクト

…「DO YOU KYOTO?」は、京都議定書にちなんで、京都から世界に向けて発信する「環境にいいことしていますか?」という意味の合言葉で、「DO YOU KYOTO?デー」には京都市全域で、ライトダウンやノーマイカーデーなどの取組を実施。

(3) 市民向け広報の充実<新規>

市民に大学を知ってもらうための取組や機会の拡充を図るため、各大学における地域貢献や地域と大学の共同事業を紹介する「地学連携ウェブサイト」の充実などを図ります。

※きょうと修学旅行ナビ

…体験学習施設やモデルコース、観光地が探せるきょうとエリアマップなど、京都への修学旅行をサポートするホームページ。

■ 資 料 編

1 京都市の大学政策に係る主な取組一覧

実施年	取組内容
昭和 60 (1985) 年	大学問題対策委員会 (庁内組織・都市計画局所管) 「国家予算に関する要望」に「工場・大学等制限法の見直し」を加える
昭和 61 (1986) 年	京都市・大学事務連絡協議会設立
平成 2 (1990) 年	企画調整局新設 (活性化推進室都市政策課が大学問題担当)
平成 5 (1993) 年	「大学のまち・京都 21 プラン」策定
平成 6 (1994) 年	「京都・大学センター」発足
平成 7 (1995) 年	「京都市大学施設整備支援・誘導制度」創設 (「大学施設整備支援窓口」開設)
平成 8 (1996) 年	「京都市大学のまち交流センター」基本計画策定
平成 9 (1997) 年	総合的生涯学習講座「シティーカレッジ」開設
平成 10 (1998) 年	「財団法人大学コンソーシアム京都」設立
平成 12 (2000) 年	「京都市大学のまち交流センター」開館 (愛称：キャンパスプラザ京都)
平成 14 (2002) 年	「工場等制限法」の廃止 (近畿圏 3 府県 3 指定都市の要望)
平成 15 (2003) 年	第 1 回京都学生祭典開催
平成 16 (2004) 年	「大学のまち・わくわく京都推進計画」策定 大学・地域連携モデル創造・支援事業 (学まちコラボ事業) 開始 大学院等共同サテライトの設置
平成 19 (2007) 年	「京 (みやこ) カレッジ」開講 (「シティーカレッジ」を改編し, 生涯学習を充実)
平成 21 (2009) 年	「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」策定
平成 22 (2010) 年	「輝く学生応援プロジェクト」始動 (学生の活動拠点「学生 P l a c e +」開設, 学生・地域連携ネットワーク「むすぶネット」運用開始) 海外における「京都の大学紹介セミナー」開始
平成 23 (2011) 年	「京都留学サイト」(4 言語) 開設
平成 24 (2012) 年	未来の京都創造研究事業 (シンクタンク事業) 開始 「海外留学派遣プログラム開発支援事業」開始

2 計画の策定経過

平成21（2009）年2月に策定した「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」は、大学を取り巻く周辺環境の変化のスピードを踏まえ、計画期間を5年間として取り組んできました。

この度、計画が目標とする期間を迎えることから、平成25（2013）年における国の第2期教育振興基本計画の策定、少子化の進展、大学・学生の国際的な競争の激化など、大学をめぐる大きな環境変化に対応し、「大学のまち・学生のまち」としての魅力をさらに高めていくため、新たな計画を策定することとしました。

（1）計画策定の体制

新計画の検討は、「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」の推進に当たり、幅広く意見を求めるための組織である「大学のまち京都・学生のまち京都推進会議」において行いました。

また、推進会議のもとに、平成23（2011）年度には計画の施策評価を行う「評価専門部会」、平成24（2012）年度からは「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」の総括を行う「情勢分析専門部会」、そして平成25（2013）年度には新たな推進計画の具体的内容を検討する「計画策定専門部会」を設置し、計画案を検討しました。

（2）検討の経過

① 大学のまち京都・学生のまち京都推進会議

第1回 平成25（2013）年7月5日

・策定方針，策定専門部会の設置

第2回 平成25（2013）年11月26日

・計画概要，盛り込む内容

② 計画策定専門部会

第1回 平成25（2013）年7月18日

・次期計画の具体的内容

第2回 平成25（2013）年10月17日

・次期計画素案

③ テーマ別計画策定専門部会

平成25（2013）年7月31日

テーマ1：学びの環境の充実

平成25（2013）年7月25日

テーマ2：大学・学生の国際化

平成25（2013）年7月30日

テーマ3：学生の進路・社会進出の支援

平成25（2013）年7月23日

テーマ4：大学が持つエネルギーによる京都力の強化

平成25（2013）年7月24日

テーマ5：学生が持つエネルギーによる京都力の強化

平成25（2013）年7月26日

テーマ6：プロモーション戦略の強化

④ 大学との意見交換会

第1回	平成25（2013）年12月11日	参加大学数	6校
第2回	平成25（2013）年12月12日	参加大学数	8校
第3回	平成25（2013）年12月13日	参加大学数	9校

(4) 委員名簿

① 大学のまち京都・学生のまち京都推進会議

(平成25 [2013] 年12月現在。五十音順, 敬称略)

	氏 名	役 職 等
座 長	赤松 徹眞	公益財団法人 大学コンソーシアム京都理事長 龍谷大学・短期大学部学長
副座長	川口 清史	公益財団法人 大学コンソーシアム京都副理事長 立命館大学学長
委 員	李 宣英	同志社大学社会学研究科博士後期課程3回生
	位高 光司	京都商工会議所産学連携・新産業推進特別委員会委員長 (日新電機株式会社顧問) ※平成25年11月6日まで
	岡田 憲和	京都市総合企画局長
	川口 佳菜子	地域公共人材開発機構事務局
	河村 能夫	龍谷大学地域連携フェロー
	清瀬 みさを	同志社大学文学部教授
	久保 千鶴	京都市立銅駝美術工芸高等学校教頭
	蔵田 翔	市民公募委員
	桑原 毅	京都新聞社論説委員
	小寺 秀俊	公益財団法人 大学コンソーシアム京都運営委員 京都大学理事・副学長
	小林 育朗	公益社団法人京都青年会議所理事長
	高田 美恵子	京都華頂大学・華頂短期大学事務局長
	辻 理	京都商工会議所産学連携・新産業推進特別委員会委員長 (サムコ株式会社代表取締役社長) ※平成25年11月7日から
	堤 大地	第11回京都学生祭典実行委員長
	濱崎 加奈子	伝統文化プロデュース連代表
	深尾 昌峰	特定非営利活動法人きょうとNPOセンター常務理事
藤田 晶子	フリーエディター	
真下 仁志	市民公募委員	
見上 崇洋	公益財団法人 大学コンソーシアム京都運営委員 立命館大学副学長	
村上 圭子	京都市観光政策監	
森本 武	京都嵯峨芸術大学・短期大学部学長	

② 「大学のまち京都・学生のまち京都推進会議」計画策定専門部会

(平成25 [2013] 年12月現在。敬称略)

	氏名	役職等
部会長	河村 能夫	龍谷大学地域連携フェロー
副部会長	小林 一彦	京都産業大学日本文化研究所長
委員	真下 仁志	市民公募委員
	村澤 悟	京都薬科大学理事・事務局長
	<u>山田 礼子</u>	同志社大学社会学部教授 <学びの環境の充実>
	<u>大西 有三</u>	京都大学名誉教授 <大学・学生の国際化>
	<u>中谷 真憲</u>	京都産業大学法学部教授 <学生の進路・社会進出の支援>
	<u>竹永 睦生</u>	京都工芸繊維大学理事・副学長 <大学が持つエネルギーによる京都力の強化>
	<u>深尾 昌峰</u>	特定非営利活動法人きょうとNPOセンター常務理事 <学生が持つエネルギーによる京都力の強化>
	<u>岡本 直輝</u>	立命館大学スポーツ健康科学部教授 <プロモーション戦略の強化>
	徳永 寿老	(公財) 大学コンソーシアム京都事務局長
	古瀬 ゆかり	京都市総合企画局市民協働政策推進室大学政策担当部長
オブザーバー	椿本 善規	(公財) 大学コンソーシアム京都副事務局長
	山本 美奈	(公財) 大学コンソーシアム京都総務・広報部次長
	竹内 俊雄	京都市総合企画局市民協働政策推進室大学政策課長
	阪本 健	京都市総合企画局市民協働政策推進室大学企画係長
	行元 沙弥	NPO法人グローバル人材開発センター事務局

※下線は、テーマごとの専門委員 (< >は担当テーマ)

3 公益財団法人 大学コンソーシアム京都

大学、地域社会及び産業界の協力による大学教育改善のための調査研究、情報発信交流、社会人教育に関する企画調整事業等を行い、これらを通じて大学と地域社会及び産業界との連携を深めるとともに大学相互の結びつきを深め、教育研究の更なる向上とその成果の地域社会、産業界への還元を図り、わが国の学術研究と高等教育の発展に寄与することを目的として、平成10（1998）年3月に設立認可された組織。

■ 加盟団体／平成25（2013）年12月現在

大学・短期大学	50大学・短期大学（部）
地方公共団体	京都市，京都府
経済団体	京都商工会議所，一般社団法人 京都経済同友会， 京都経営者協会，公益社団法人 京都工業会

■ 法人の概要

理事長	赤松 徹眞
基本財産	1億円（うち京都市出せん額5千万円，出せん率50.0%）

■ 事業の概要

事業部名	主な事業
教育事業部	単位互換事業，生涯学習事業，キャンパスプラザ京都管理運営等
高大連携事業部	京都の大学「学び」フォーラム，インターンシップ事業等
総務・広報部	全国大学コンソーシアム協議会事務局運営等
高等教育研究推進事業部	FD・SD事業，国際連携事業，都市政策研究推進事業等
学生交流事業部	京都学生祭典，京都国際学生映画祭，京都学生芸術普及事業等

■ 所在地等

所在地	京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町939 キャンパスプラザ京都内
電話	075-353-9100
FAX	075-353-9101
ホームページ アドレス	http://www.consortium.or.jp/

4 京都市大学のまち交流センター（キャンパスプラザ京都）

大学における学術研究の成果その他の知的資産を活用することにより、豊かな地域社会の形成に資するため、大学相互の間及び大学と産業界、地域社会等との連携及び交流を促進する活動その他の活動の用に供するために京都市が設置した施設。公益財団法人大学コンソーシアム京都の活動拠点になっている。

■ 施設の概要

所在地	京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町939
面積等	敷地面積 2,632.71㎡ 延床面積 11,677.47㎡ 鉄筋コンクリート造 地下1階地上6階
開館日	平成12（2000）年9月8日
総事業費	約100億円（平成8年～12年）
開所時間	午前9時から午後9時30分
休館日	月曜日並びに1月1日から同月4日まで及び12月28日から同月31日まで
電話	075-353-9120 075-353-9111（予約専用）
FAX	075-353-9121
ウェブサイト	http://www.consortium.or.jp/

■ 館内施設概要

6階	第1～8講習室
5階	第1講義室，第1～4演習室，共同研究室
4階	第2～4講義室
3階	放送大学京都学習センター
2階	第1～3会議室，ホール，和室
1階	学生Place+，大学コンソーシアム京都事務室，喫茶店
地階	駐車場